

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090600105		
法人名	有限会社 アイビス		
事業所名	グループホームかしょうの里		
所在地	群馬県沼田市中発知町1382番地の1		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成31年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループかしょうの里では、利用者様に耳を傾けることを大切にしています。静かな環境の中で、季節の花々を見・散歩・ドライブなど楽しんでいます。また地域の方たちに恵まれ、野菜ができた、魚を釣った、りんごができた等数え切れないほど支援を受けております。地域の幼稚園の運動会見学及び慰問に来ていただき、小学校5年性による慰問があります。一緒にゲームをしたり、生徒さんによる肩たたきなどして楽しみます。池田中学校には、「ふれあいの日」で体育館に集まり、生徒さんが利用者の車イスを押して下さり交流を深めます。近くのリンゴ農家さんの自宅に伺い、馬鹿面を見学し、またご馳走になります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域とのつながりを大切に考えており、近隣中学校行事の「ふれあいの日」や老人会などの地域行事で交流を図ることで、入居以前からの継続した関係が続けられるよう支援している。そうした関係性もあり、区長や知人が事業所と関わり、有事の際の協力体制ができています。利用者とは、初回のアセスメントや日々の関わりのなかから聞き取り思いを汲み取り、興味関心を引き出す声かけや思いを叶えるために細やかな工夫がされている。また、利用者・家族が安心して医療を受けられるように、入居後も変更せず職員が受診介助を行い、日々の様子を伝えながら医療との連携を図っている。その他、重度化した際は、訪問看護ステーションや協力医療機関からの訪問診療が行える体制が整えられている。毎日の食事は、楽しみが持てるように一緒に皮むきを行って準備をし、季節の食材は味付けを変え、飽きが来ないような工夫がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	身体拘束がさげられるなか、グループホームも昨年より身体拘束禁止の勉強会を行っている、そのため身体拘束禁止を文言に取り入れ作成。 職員休憩室の入り口に貼ってあり確認している。	管理者自身の経験で、身体拘束をしないことの重要性を感じた結果、平成31年3月に理念の見直し、利用者の権利の尊重、生活の質の向上、身体拘束等の禁止の方針とした。意識づけのため、毎朝、職員と理念の確認や廊下に掲示している。日々のケアでは、スピーチロックを行わないように職員同士で注意しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の作品展に出展したり、池田幼稚園生、小学生たちの慰問があり歌を聞いたりゲームをしたり楽しめます。中学校の「ふれあいの日」利用者、職員が参加し体育館で歌や花を生けた物などを見ます。昼食を生徒さんと一緒にいただきます。	日頃より近隣との親密な交流があり、果物や野菜等の収穫物を頂いたり、竹やぶからタケノコを自由に取らせてもらったりしている。また、マンドリンや面友会による馬鹿面踊りの訪問、事業所を会場にして近所のピアノ教室の発表会を行うことで、地域の方に訪問してもらい、利用者の顔を見知ってもらうようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、利用者様に対しての話し合いをおこなっています。また、地区の委員の人たちも最初は混乱するときもありますが、納涼際で地区の人たちと一緒に行動しても、穏やかさを見ると安心している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の委員会の人たちは、何年も関わって下さっているため、何でも気持ち良く話し合えます。利用者の問題行動などが持ち上がると、危険が無いように、助言などいただきます。災害があったときは、飛んできて下さる。有り難いです。	長寿会や民生委員、市職員、在宅介護支援センター職員や振興協議会の方が参加をし、利用者の様子や行事の報告・質疑を行っている。そのなかで、身体拘束についての対応について助言をいただいたり、災害時には協力をしていただけるような関係性を構築している。	運営推進会議に家族が参加できるような工夫を検討していただきたい
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進鍵で市の担当者が見え、利用者様の報告や助言をいただき、専門的な相談ができ、施設の質の向上を目指します。	入居対象者の基準について市の担当者へ相談したのを機会に、入退居時の判断や運営についての相談をしている。市の担当者には、運営推進会議に参加をしてもらっており、互いに顔をわかり合い、相談がしやすい関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会で3ヶ月に一度、話し合い具体的に事例をだしたりアンケート調査を行い。全員が、身体拘束や、虐待はしないと理解している。	平成31年に現在の管理者へ変更になってからは、利用者が閉塞感を感じないようにと、日中は玄関を開錠し、外に出たいときは職員と一緒についていくようにしている。身体拘束適正化委員会では勉強会を実施し、不適切な対応は適宜管理者が注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の普段の態度や行為を観察し、利用者様が嫌いな職員がいないか恐れていないか観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで、持ち上げるため一部の職員は知っている。今後は成年後見制度や日常生活自立支援の話はミーティングを通して説明します。 現在は利用している利用者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧な説明はしているが、問い合わせにも答えている。複写を一部保管していただいている。また改訂等は手紙を出し同意をいただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見や要望を聞いています。言われたことはミーティングで話し合い、反映させている。面会に来られないご家族には電話で意見を言ってきたり、手紙に意見を書いて下さるご家族もいる。	面会時に家族へ、利用者の日々の様子を報告し、希望があったときは個別な対応をすることはあるが、運営に関する意見を頂くことはない。面会が難しい家族もおり、本人と家族の関係性に配慮しながら、利用者の要望を叶えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表に直に言えないときは、近くに居る管理者に話がある。個々の意見が多く、その意見を代表に伝えている。	管理者が経営者の為、職員から直接相談ができる体制がある。職員同士での食事会や交流をし、日頃より互いに話しやすい雰囲気づくりをしている。その中で、給与や長期の有給休暇などの相談を職員から受け、管理者から社会保険労務士などに相談し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間内に退社できるように支援し、また有給休暇は希望があれば勤務に支障が無い限りは取得してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、義務づけと、研修内容によって自由に受講できる。新人は、認知症をよりよく知ってもらうため研修を多くする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会での研修や、行事に来ていただいたり、ほとんどが顔見知りで、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安がらないように寄り添いのケアや要望にはできる範囲で協力している。利用者様によっては、此处にいること自体がわからなく混乱するときは、アセスメントしたなかで安心する言葉がけや、親族の名前を出し安心していただく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大切なご家族が、家から離れて暮らす事に不安を持つのは誰にも言えることだと思います。私達は訪問時の接遇を大切に、気持ち良くご家族を要望がこれから介護することや、利用者様にとってもこれからの介護に役に立つことを伝え、たくさんの方の要望は言っていたきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にのるときは真摯な態度で、不安を抱かないよう、相談にのり現在の様子、ADLの状態など含めて話し合い、その方に合ったサービスを説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような存在感、母親・父親と同様な温かさを感じ、その存在が私達を慰めていただくときもある。壁をつくってしまうと、信頼関係がなくなります。不安を持つ利用者者には、寄り添い会話し安心していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までご家族と過ごした時間を大切に、情報を共有し施設の行事にも参加していただき、普段の様子の中で、安心していただいたり。何か有ったときは電話連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初期の、インテーク時に、許可を得て支援します。また利用時に自宅に、利用者様と出向いても良いか確認しています。自宅に帰れないときは、面会に来ていただく様に支援しています。	入居時の聞き取りや、日々の関わりの中で、利用者の馴染みの関係を引き出すようにしている。年に1度地域の中学校行事の招待で出向くと、以前交流の会った方々と出会う利用者もいた。かかりつけ医療機関の受診や家族との外食を、継続して行えるよう支援している。	日常生活のなかで、馴染みの関係性の継続ができる工夫の検討をしていただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がクッションとなり会話ができる、行事に参加しコミュニケーションが図れる等の支援はしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前使用した利用者様が亡くなったときはお悔やみ電報を出したり。 沼田市に在住しているご家族の方は、買い物などで行き会ったときは、立ち話などご家族の近況を伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のアセスメントや生きてきた経緯を大切に、現在を大切に生活して行けるように、アセスメントしたなかから思いを聞き取る。	入居時に利用者とは直接面談をし、大切にしていることや意向を伺っている。その後、生活の中で、特に入浴時や夜間帯など個別に会話ができるときに対話を心がけ、思いを把握するように努めている。利用者から個別にドライブや野球観賞など希望があったときは、そのたびに外出支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の相談で詳しくご家族から情報を得て活かしていく。また施設からの情報、利用者様の言葉を大切に、生活援助の参考にしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報の共有、ミーティングや当日の朝礼などで意見を聞き支援の方向を話し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族に方の要望など合わせ、職員と話し合い計画を立案している。 また、日常のケアのなかで変化が有るときは、追加し計画を立案している。	入居時や状態の変化時、更新時にアセスメントを定期的に行い、利用者の状況にあわせてケアプランを作成している。状態の変化等は申し送りノートに記載をし、全員が目を通し、日々のケアに反映している。ケアプランをまとめたファイルを作成し、職員は業務の合間に確認ができるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と申し送りノートなどを利用し、気になったこと利用者様の会話が気になったなど実践の介護に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の思いを大切に、ご家族様に伝えと共に、医療機関や訪問看護師の協力の下話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し(作品展・夏祭り・どんどん焼き等)に参加し交流を深めている。また施設でも納涼席で、ピアノ教室の先生や生徒さん、地区の人たちに来ていただき交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、本人やご家族から、かかりつけ医を聞いて今まで通り受診介助を行っている。受診に行けなくなったときは、本人、ご家族様と相談し、かかりつけ医が往診できないようであれば、診断書を書いていただき協力病院の往診となる。	入居中の様子を伝えるため、職員が受診の介助を行い、家族に面会の際に報告している。認知症状から受診が困難になったケースでは、往診に切り替えて対応をし、継続的に医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に、前回からの情報をまとめて記録用紙に記入し看護師に渡している。また訪問看護師も一人ひとりの情報を口頭で伝えと共に記録用紙に記入。記入した記録用紙は、印刷し当施設と訪問看護ステーションで保管している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が悪いときは、訪問看護師に電話連絡し指示に従う。入院した場合は、当日の様子やバイタルなど説明したり、今までの経緯を説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化における指針を説明し、質問には丁寧に受け、納得いただいた場合には、同意書にサインしていただいている。繊細なことなので、状態の変化時に話し合いを持ち、ご家族の要望を取り入れていく。	入居時に、家族には重度化における指針を説明し、看取りの意向を確認している。入院や利用者の状態に変化があったときは、適宜意向を再確認をしている。職員が看取りの支援を負担に感じないように、職場での学習や外部の研修の機会を作り、事業所内で共有している。また、訪問看護や協力医療機関と連携をし体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師に連絡し指示の元動いている。またマニュアルはあるが、症状が決まってくると困るときは、看護職員に相談したり宿直者に相談する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、夜間想定し5月に訓練をおこない、水の消火器を使用した消火訓練を行った。同一敷地内に、小規模多機能があり協力し合い避難訓練を行っている。避難場所は、施設内に貼ってある。	避難場所は職員が把握できるよう掲示しており、災害の種類によって移動ルートや手段を話し合い、決定している。年2回の避難訓練を実施し、1回は夜間想定で行っている。運営推進会議にて、近隣の方々と有事の際に協力する体制を確認しあい、災害時の備蓄も用意してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正化委員会で3ヶ月に一度、話し合い、スピーチロック等議題に出し、話し合っている。 また月に一度のミーティングでも、話し合いを持ち此処に注意し対応している。	居室は利用者が借りているプライベートな空間であることを職場会議で共有し、居室に入る際はノックをして入るよう周知している。また、利用者に不安や不快な思いを与えないよう、声の大きさや抑揚に配慮をし声かけを行っている。馴染みの関係や尊厳を大切にしながら、本人の意向が叶えられる対応を、毎月のミーティングで模索している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物支援や、受診からの帰りに買い物してくるなど軽度の人には支援ができる。 できない利用者様には、散歩などで気分転換し、また季節のレクで外出などは支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日毎日の生活なので、運動したくない利用者様、気分が優れない利用者様がいます。そういう方達は、自由に過ごしていただき無理強いはいしない方針です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は、洗面台で洗顔する利用者様は3人ができるが、できない人には、洗面用の温タオルで顔を拭いて頂くか介助している。 洋服は、選んでいただくか、できない人は職員が選んでる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の材料の下処理は利用者様が行い、当日に調理しお出ししている。 茶碗をの片付けなど、していただけます。 寿司食べたいの希望が有るときは、何ヶ月に一度は食べられる様にしている。 また、ふきのとうが出たときは、ゴミを取り除きお焼きを作ってもらいます。	近所から頂戴する旬の野菜や周囲で採れるタケノコや山菜を食することで、季節を感じられるようなメニューを作成している。また、ふきの皮むき等、利用者に馴染みのある作業や調理をすることで、自分で作った達成感が得られるよう支援している。食後の片付けは利用者の力量に応じた役割をもっていたできるように、個別に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ないときは、医師と相談しエンシュアなど補助食など処方していただき、ゼリーにして食べていただけます。 水分も、尿量が少ない利用者様にソフトドリンクなど口当たりがよい物を吞んでいただいている。 発汗の後も水分を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、個別にしっかり口腔ケアはしています。 義歯の利用者様には、週2回ポリデント消毒をしている。 歯科医の往診で歯の治療や義歯の状態を診てくれます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員がリハビリパンツで車イスから便器に移動時介護者が一人だと危険がある場合は2人で介助を行っています。排泄を訴えられない利用者様には、時間を見計らってトイレ介助を行っている。	排泄チェック表を用いて、利用者の排泄パターンの把握に努めている。利用者より排泄の訴えがあった際に職員が対応を続けたことで、より小さいサイズのパットに変更できた方もいる。また、便秘を予防するために、食事面にも意識し、牛乳やヨーグルト、らっきょう等を取り入れ、改善できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から、毎日10時に牛乳を飲んでもらい、ヨーグルトは食事のデザートにつけたりしている。 下剤の処方がある利用者もいます。便秘の日にちを確認し下剤を服薬介助します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日には、声がけし衣類を準備できる人にはしてもらっている。 状況によっては、シャワー浴のときもあります。入浴は、週に2回くらいですが、状況(便で汚れた)などのときは、入浴がシャワー浴してもらいます。	入浴後の着替えを選択できるように、利用者自身に用意してもらっている。入浴中は利用者と職員が1対1で話せるので、利用者が話しやすい雰囲気となり、入浴を楽しみにしてもらっている。入浴中にリラックスできるように、季節にあわせた入浴剤を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	採光や雑音、部屋の温度には留意して、休みやすい環境を作っている。 昼夜逆転の利用者様はいます、天気の良い日は散歩や庭にでて日光浴しています。日中体操や運動で身体を動かします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員のスタッフが把握していることはないが、看護師から聞いたりしている。 内服で変化があったときは、申し送り簿に記載している、全員が記録を見て把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会で当日の昼食は、誕生会用に少し豪華にし、15時はほとんどの利用者がケーキを希望しますが時には、饅頭が良いと言う利用者様がいて、その時は、饅頭で祝います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	陽気が良い時は、外に出て日光浴や市の催しの行事があるときは、見学に出掛ける。 桜が咲けば、沼田公園にお花見に外出、ひな人形診に出掛けている。 買い物に行きたいの希望があれば、スーパーに買い物に行っている。	日常的に屋外で日光浴をしたり、近所のなめこセンターに散歩に出かけたりして、利用者の気分転換を図っている。外出行事は、利用者に馴染みのある場所を選び、沼田公園やひな人形鑑賞、沼田祭り等に出かけている。また、利用者が化粧品を所望したときは、受診の帰りに買い物に行くなどして利用者の希望を叶えようと工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、使って良い金額は施設の方で立て替えている。 お金を自分でもってみたい人もいますが、ご家族はトラブルになると困ると、ほしい物は立て替えています。 事務所で管理している、お金もありますが、医療費を支払っているくらいです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて、自宅に郵送を頼まれます。 電話は、ほとんどの利用者様に難聴が有ったり、会話がスムーズに行かない利用者様が多く、ご家族もそこは理解して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気分良く過ごせ、また安全に配慮し余分な物は置かない、今まで通り変化なく穏やかに過ごしていただく様配慮はしている。 季節の花を飾ったり、季節の貼り絵や塗り絵などホール内に掲げている。 温度や採光、などには気を遣い快適に過ごして頂ける様に配慮している。	臭いが籠らないように天井を高くし、また季節に応じて過ごしやすく室温をエアコンや床暖房で調整している。感染症予防のため、次亜塩素酸を希釈した液を使って拭き掃除を行っている。 ホールには行事の際の写真や季節の貼り絵を掲示することで、利用者と職員の会話のきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に部屋があるので、衣類の整理や休みたいときに休める様にしている。 また馴染みの人との、井戸端会議はお互いにしているので邪魔しないようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は、筆筒など持ってきて頂いたが、今は布団や毛布など簡単に運べる物を持てきます。 またご家族のアルバムを持参して。 窓を開け外気を取り入れたり、季節の移ろいが見られるようにしてあります	ベッドや布団、衣装ケースは事業所で用意しているが、本人がさみしい思いをしないようにと考え、家族には自由に馴染みのものを持ってもよいと伝えている。自宅から鏡を持ち込み、化粧をしたり、家族の写真を掲示したりなど、利用者の気持ちに寄り添った環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のできることには、してもらい部屋で編み物に熱中したり、雑巾を縫ってもらうこともあり、掃除や草むしりを一緒にしています。 何か役割があることで生き生きしていることが分かります。		